

第1397回 京都市教育委員会会議 会議録

1 日 時 平成30年8月9日 木曜日
開会 10時00分 閉会 11時45分

2 場 所 教育委員室

3 出席者 教 育 長 在田 正秀
委 員 星川 茂一
委 員 鈴木 晶子
委 員 高乗 秀明
委 員 笹岡 隆甫

4 欠席者 委 員 奥野 史子

5 傍聴者 12人

6 議事の概要

(1) 開会

10時00分、教育長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第1396回京都市教育委員会会議の会議録について、教育長及び全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案2件、報告1件

イ 議決事項

議第11号 平成31年度に京都市立小学校及び義務教育学校（前期課程）において使用する教科書の採択について

議題12号 平成31年度から平成32年度まで京都市立中学校及び義務教育学校（後期課程）において使用する「特別の教科 道徳」教科書の採択について

（事務局説明 関 学校指導課担当課長）

本日は、平成31年度に使用する小学校・義務教育学校（前期課程）の教科書、および平成31年度から32年度まで使用する中学校・義務教育学校（後期課程）「特別の教科 道徳」の教科書の採択について、議案としてお諮りするので、御審議いただきたい。

最初に、小学校の教科書採択について説明する。議第11号を御覧いただきたい。まず議案であるが、1枚もので議案説明資料と別紙「教科書採択に関わる基本方針」、さらに別綴じで、教科書選定委員会の答申の写しを添付している。それでは、教科書採択事務の経過等について説明する。議案説明資料を御覧いただきたい。

5月10日の教育委員会会議において、教科書採択にかかる「基本方針」を議決いただいた。その後、各教科の教育研究会長、教育委員会の担当指導主事、学識経験者、保護者代表等の計27名からなる「京都市地区小学校教科書選定委員会」を設置し、5月14日に第1回選定委員会を開催した。

なお、この間報告しているとおり、本年度の小学校教科書採択は、昨年度新たな教科書の検定申請がなかったため、前回平成25年度に検定合格した教科書の中から採択することとなる。また、小学校新学習指導要領が平成32年度から全面実施となり、新たな教科書を使用することとなるため、今回採択する教科書は通常4年間使用するところ、平成31年度の1年間のみ使用するものとなる。

こうしたことを踏まえ、採択事務においては、教科書選定委員会は設置した上で、調査研究部会は置かず、前回平成26年度採択時の調査研究資料を活用することとした。その上で、各教科の教育研究会および担当指導主事において、今回の「基本方針」と現行使用教科書の4年間の使用実績を踏まえ、新学習指導要領の視点も加えて、成果や課題等を整理した資料をまとめていただいた。

こうした調査研究の結果をまとめた資料が「答申案」として、7月9日の第2回選定委員会で確認・決定され、7月17日には、教育長に提出いただいている。別綴じの資料が答申の写しである。

また、この間の教育委員会会議において、選定委員会の開催状況や協議内容等について、適宜御報告し、協議いただくとともに、7月26日には答申内容について説明したところである。

続いて、議案説明資料「2 教科書展示会について」説明する。教科書展示会については、新たな教科書がないことから、法定のとおり、6月15日から7月4日まで、京都市総合教育センターおよび右京中央図書館の2箇所の教科書センターで開催した。なお、教科書展示会で寄せられた意見等及び団体等から寄せられた意見書等はなかった。

それでは、議第11号、平成31年度に京都市立小学校および義務教育学校（前期課程）で使用する教科書について、説明する。議案をおめくりいただき、別紙を御覧いただきたい。平成31年度京都市立小学校および義務教育学校（前期課程）で使用する教科書について、採択候補案は、一覧のとおり、すべての教科で現在使用している教科書としている。

これは、前述のとおり、現在使用している教科書が前回採択時に綿密な調査研究を行

った上で採択したものであること、4年間様々な現場の工夫により効果的に使用されてきていること、教科書内容が変わっていないこと、また、平成31年度1年間のみの使用であることなどを踏まえたものである。

各教科書の継続使用の理由等について説明する。別綴じの教科書選定委員会の答申を御覧いただきたい。資料の前半に「調査研究資料」があり、各教科について、4年間の教科書使用を踏まえた実感や授業における工夫についてまとめた上で、各教科ごとに平成31年度使用教科書に関する意見を附していただいている。また、資料の後半には「観点別資料」を付けており、それぞれの観点について、左側に26年度採択時の調査研究結果、右側に4年間の使用実績に基づく見解等を記載している。「観点別資料」を基に、「調査研究資料」を作成した形である。

「調査研究資料」に基づき、担当の栗本首席指導主事から、全教科を一括して説明する。

(事務局説明 栗本 総合教育センター首席指導主事)

調査研究資料1ページを御覧いただきたい。国語科は、光村図書出版を使用している。言語活動例が豊富に掲載されていたり、教材構成が工夫されていたりするなど指導者が創意工夫できる要素が多く含まれている。授業改善に向けた「めあて」と「ふりかえり」を意識した学習を行いやすく、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の実現にも効果的である。また、言語活動の中に、国語科で培った知識及び技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を育成できる場面を適切に設定しており、他教科において表現活動などの学習が進めやすい。

調査研究資料2ページを御覧いただきたい。書写は、教育出版を使用している。写真や図版などの視覚的な工夫や「めあて」や「つまづきやすいポイント」の明示などにより、児童が具体的なイメージをもって、主体的な学習を進めることができるよう構成されている。硬筆と毛筆を関連づけた教材や他教科等の学習活動で活用できる教材など教材構成にも工夫が図られており、「書く力」の向上につなげやすい。また、古典や俳句など我が国の伝統的な言語文化にかかわる教材も豊富なことから、新学習指導要領の趣旨に沿ったものである。

調査研究資料3ページを御覧いただきたい。社会科は、東京書籍を使用している。新学習指導要領においても重視されている問題解決的な学習過程を意識した構成になっている。また、「読み取る」、「表す・伝える」など社会科の特質に応じた学習活動の進め方が示され、基礎的・基本的な内容の習得につなげやすい。児童の問題意識から学習問題を設定し、児童同士の話し合いの場面を提示して対話的な学びを促すとともに、「まとめる」のページにおいて、身に付けるべき知識が例示されていることなどから、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に有効に活用できると考える。

調査研究資料4ページを御覧いただきたい。地図は、帝国書院を使用している。表記や色彩が工夫されており、重要な情報が捉えやすく、児童が学習を進める上で見やすく

使いやすい紙面構成である。地図の成り立ちや地図帳の使い方など基礎的な内容が記載されていることにより、地図を使うための基本的な知識や技能の習得が図りやすい。また、地図とともに地域の様々な情報が図版等で記載されており、社会科学習において重要である資料を活用する能力の向上とともに、新学習指導要領で重視されている社会的事象の見方・考え方に示された「時期や時間の経過」、「事象や人々の相互関係」の視点で社会的事象を捉える学習に活用できる。

調査研究資料5ページを御覧いただきたい。算数科は、新興出版社啓林館を使用している。児童自らが行うことができるようになる学習の進め方が提示されているとともに、1時間の授業の流れが明確である。自分の考えをわかりやすく説明したり、論理的に表現し伝え合ったりする活動を意図的に取り入れた学習場面が設けられており、新学習指導要領における数学的活動の「数学的に表現し伝え合う活動」を大切に学習につなげやすい。また、系統的な内容をスパイラルに学習することや、児童が苦手意識のある文章問題を独立させていることなど、確かな学力の育成につながる工夫がされている。

調査研究資料6ページを御覧いただきたい。理科は、大日本図書を使用している。活動を通して見つけた気付きや疑問を基に学習問題を設定し、問題解決の過程に沿った授業を展開することで、児童が主体的に学習を進めたり、実生活での活用場面を想定したりしながら思考力・判断力・表現力等を高めることができるよう構成されている。また、児童同士の対話を通して科学的な見方・考え方の育成を重視していること、理科の有用性を実感できるものづくりや資料が充実していることなど、「主体的・対話的で深い学び」を目指す新学習指導要領の趣旨にも合致している。

調査研究資料7ページを御覧いただきたい。生活科は、光村図書出版を使用している。児童の思考の流れをしっかりと汲み、使用されている写真や言葉なども、児童が具体的にどのような活動や思考をすればよいかを促す表現となっており、写真や色使い等視覚的にも工夫されている。また、新学習指導要領で重視されているスタートカリキュラムを意識したページをはじめ、児童の意識や発達段階を踏まえた配慮が効果的で、児童の自発的な気付きや思いを引き出し、実生活で身近な生活に関わる見方・考え方を生かすことにつながっている。

調査研究資料8ページを御覧いただきたい。音楽科は、教育芸術社を使用している。共通事項を核に内容が構成されており、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞といった音楽活動をバランスよく学ぶことができる。第1学年の4月当初の題材は、生活科との合科的・関連的な指導の充実に十分な題材となっており、新学習指導要領で重視されているスタートカリキュラムの視点を踏まえた効果的な指導につながっている。また、系統的・段階的に学ぶことができる題材配列により、知識・技能の確実な定着が図りやすいだけでなく、「主体的・対話的で深い学び」の実現に効果的である。

調査研究資料9ページを御覧いただきたい。図画工作科は、日本文教出版を使用している。題材のめあてと振り返りがわかりやすく示され、児童が見通しをもって学習しやすい構成であり、「造形的な見方・考え方」を働かせた学習活動の場面を写真や吹き出し

などで示すことで児童が活動へのイメージを高め、主体的な学びにつなげることができている。また、材料・用具を用いた表し方についても発達段階に応じた方法が示されており、新学習指導要領で示されている「児童が自分の感覚や行為を通して理解する」ことの指導の充実につなげやすい。

調査研究資料10ページを御覧いただきたい。家庭科は、東京書籍を使用している。基礎的・基本的な学習内容の定着を繰り返し確認できる項目や、家族・家庭、衣食住、消費・環境等、生活の営みに係る見方・考え方を働かせるような項目が題材ごとにバランスよく設定されており、児童の学びの質を高める上で効果的である。また、実習上の注意事項や作業工程がわかりやすく示され、安全な学習活動に取り組むことができるよう工夫されている。新学習指導要領で示されている「日本の生活文化」の内容が、題材ごとに分かりやすく記載されており、児童が大切さに気付く学習につなげやすい。

調査研究資料11ページを御覧いただきたい。体育科保健領域は、学研教育みらいを使用している。各単元において、授業の流れが分かりやすく資料が豊富であるため、指導者がそれぞれの学級の実態に合わせた授業を組み立てやすく、児童にとっても使用しやすい。特に、健康や安全について考えを深めるための資料や写真が豊富であり、児童は学習内容を児童自身の生活や心身と結び付けて考えやすい。また、新学習指導要領に示されている主体的に健康の保持増進や回復に取り組む態度を養うことにつなげることができる目標、内容が適切に設定されている。

(委員からの主な意見)

【星川委員】 現使用教科書について、綿密な調査および使用実績の振り返りをしている。現使用教科書を引き続き使用することについて異論はない。今回の調査研究を踏まえ、学校現場の教育課程編成や授業等において、改めて見直すべき点等はなかったか。

【事務局】 新学習指導要領を踏まえ、本市においては昨年度に教育課程編成要領及び移行措置要領を策定し、学校に周知を図ったところである。また、新学習指導要領において重視されている「主体的・対話的で深い学び」「社会に開かれた教育課程」、「教科横断的な視点」を踏まえ、学校現場においては現使用教科書の良さを最大限に生かしつつ、アクティブ・ラーニングの視点による授業改善の研究事業や、カリキュラム・マネジメントに関する研修等が進められているところである。さらには必要に応じて学校独自の教材の活用等も進められており、それらの知見や気づきを学校現場で共有しながら、平成32年度からの新学習指導要領の本格実施に向けて取り組んでまいりたい。

【星川委員】 4年間の使用実績を振り返ることは初めてのことが。

【事務局】 これまで、新たに検定を受けた教科書を調査研究することはあったが、現使用教科書について深く調査研究することはなかった。今回、そうし

た機会を得たと捉え、調査研究内容について、学校へ伝えてまいりたい。

【在田教育長】 観点別資料に盛り込まれている、新学習指導要領の趣旨の実現に向けた授業改善等にかかる留意点は、教員が授業で生かせるものであり、周知をしていただきたい。

(事務局説明 関 学校指導課担当課長)

続いて、平成31年度から32年度まで使用する中学校・義務教育学校(後期課程)「特別の教科 道徳」の教科書の議案について説明する。

議第12号を御覧いただきたい。議案と議案説明資料である。また、参考資料として、教科書選定委員会の答申の写し、教科書展示会の実施状況、諸団体等からの要望書の写しを配付している。

なお、中学校「特別の教科 道徳」は教科書見本も用意しているので、適宜御覧いただきたい。

それでは、まず、教科書採択事務の経過等について、簡潔に説明する。

5月10日、教育委員会議において、教科書採択にかかる「基本方針」及び「選定の観点」を議決いただいた。その後、学校現場の教員、担当指導主事、学識経験者、保護者代表等の計32名からなる「京都市地区中学校教科書選定委員会」を設置し、5月14日に第1回選定委員会を開催した。5月14日の第1回選定委員会では、「基本方針」及び「選定の観点」に基づき、教育長から選定委員会に対し、教科書選定にかかる諮問を行うとともに、正副委員長の選出、各教科書の点検や調査研究作業のスケジュール確認などが行われた。6月18日に予定していた第2回選定委員会は、当日発生した大阪北部地震のため、急遽休止し、外部委員の皆様へ個別に調査研究の内容や進捗状況等を報告し、御意見を頂戴した。7月9日の第3回選定委員会では、調査研究の最終状況の報告・質疑や、それらをまとめた「答申案」の確認・決定が行われた。

選定委員会においては、調査員である現場教員による各教科書の調査研究はもとより、外部委員として参画いただいた学識経験者や保護者代表の皆様から、その専門性や知見を生かした多岐にわたる幅広い御意見を頂戴した。約2ヵ月にわたり、全体会が2回、個別の意見聴取が1回、調査研究部会が延べ80回開催され、熱心な調査研究・協議が行われたものである。最終の答申については、7月17日、教育長に提出をいただいた。

また、教育委員会においても、この間、選定委員会の経過や協議内容、調査研究の状況、教科書の特徴等について、適宜報告し、協議いただくとともに、7月26日には答申の内容を説明したところである。

続いて、「2 教科書展示会について」である。中学校の「特別の教科 道徳」の教科書については、8社すべてが新たに申請された教科書であることも踏まえ、「開かれた教科書採択」として、法令で定められている教科書センター2会場に加え、地域図書館を中心に市内全域の計11会場で開催したほか、展示期間についても、6月1日から7月4日まで、法定(6月15日から14日間)の約2倍の期間を設けた。

最終的に、閲覧名簿に記載された方だけで175名の方に来場いただくとともに、142件の意見書を頂戴した。別綴じの参考資料2に、頂戴したすべての意見書を配布している。

頂いた意見の内容としては、特定の教科書、教材への意見が最も多く、次いで教科化への不安や疑問、評価に対する意見が多かった。

また、参考資料3として、教育委員会に対して提出された要望書8通及び個人名で郵送された葉書106通の写しも配布している。なお、個人名で頂戴した葉書は、すべて同じ文面の内容となっている。これら意見書や要望書については、この間の教育委員会勉強会等で、その時点で提出されたものを、適宜お示ししてきているが、本日は、改めてすべての写しを配付しているので、御確認いただきたい。経過説明は以上である。

それでは、議第12号、平成31年度から32年度まで使用する中学校・義務教育学校（後期課程）「特別の教科 道徳」の教科書の採択について、説明する。

別紙を御覧いただきたい。採択候補案は「東京書籍」としている。また、議案説明資料3ページ以降に各教科書の主な特徴等をまとめている。ここで、中学校道徳教育担当の藤井副主任指導主事より、本議案に至った視点として、各教科書の特徴等について説明申し上げる。

（事務局説明 藤井 総合教育センター副主任指導主事）

それでは8社の教科書について、それぞれの主な特長等について、説明申し上げます。議案説明資料の別紙1を御覧いただきたい。

東京書籍である。各教材に、その教材で考えるテーマがわかりやすく提示されるとともに、関連の漫画や、段階的な発問が提示されており、主体的に学習を進めやすいのが特徴的である。また、教材テーマと中心発問等とを関連させて振り返ることで、考え、議論する手立てとなるよう工夫されている。問題解決的な学習は、イラストやワークシート等を活用することで無理なく学習が進められ、また、特設ページに役割演技等の体験的な学習が用意されるなど多様な学習方法が提案されている。現代的な課題等は、先人の伝記はやや少ないものの、多様な教材がバランスよく扱われている。特にいじめ問題について複数教材を組み合わせたユニット構成とするなどよく工夫されている。学習記録（自己評価）の特設ページも、次学年や卒業後を見据えるなど構成に優れ、使いやすいものとなっている。

学校図書である。各教材に、内容項目、主題、教材名など、様々な情報が掲載され、ねらいの明確化が図られている。しかしながら、情報が多すぎて生徒が焦点化しにくい。問題解決的な学習や体験的な学習は、教材にそれぞれの要素を取り入れた学習展開を提案している。また、各学年に22箇所用意されている「心の扉」では、学習した内容を日常生活や社会の発展にまで視野を広げたり、現代的な課題等を多面的・多角的に考えたりできるようよく工夫されている。さらに、学期ごと、また1年間の学習を振り返る特設ページが用意され、自分の生き方について見つめることができるよう構成されてい

る。

教育出版である。各教材に、生徒にわかりやすい導入文や3段階の発問を提示することで、生徒が自身の考えの変化を実感しやすく、また、グループ活動や意見交換などの学習活動が進めやすい。問題解決的な学習や体験的な学習は、各学年で複数設定されているほか、役割演技や話し合い活動が効果的に取り入れられるなどよく工夫されている。ただし、1時間1教材の教材を中心とした構成でコラム等がないため、多面的・多角的な学びにつなげる手立てとしては弱い面がある。なお、現代的な課題等については、特に伝統と文化に関する教材が最も豊富なことが特徴的である。

光村図書出版である。1年間を4シーズンに分け、各シーズンのテーマに関連した内容項目の教材を有機的に結びつけるユニット構成が特徴となっている。しかしながら、各校の年間指導計画と整合性を図り、ユニットの効果を損ねないよう教材の配列を再構築することが難しい。指導の工夫としては、教材ごとに手引ページが用意され、発問が4段階で提示されるとともに、問題解決的な学習や体験的な学習の提案、他教材・他教科との関連、小学校での学びの振り返り、読書活動など多面的・多角的な学びにつなげられている。現代的な課題等では、教材とコラムを組み合わせ、実際の活動で確かめたりすることなどが提案されている。

日本文教出版である。各教材に、登場人物がイラスト等で示されているのが特徴的で、また、段階的な発問など、主体的に学習を進めやすいよう構成されている。さらに、各教科や地域と関連したコラムが豊富で、多面的・多角的に考え、実践につなげられるようよく工夫されている。現代的な課題等は、教材とコラムによるユニット構成で、知識やスキルを積極的に紹介していることも特徴的である。別冊としてのノートは、1教材1ページの構成で、教材ごとに5段階の自己評価を用意するなど工夫されているが、本冊は右開き、別冊は左開きのため、使いにくく、また、挿絵やイラストの数が多く、色使いも派手な印象である。

学研教育みらいである。生徒の感性を生かすため、あえて各教材に主題を提示していないが、そのことが教材の内容を捉えにくくしている。また、発問が1問のみの教材が多いが、特設ページで異なる視点を取り上げるなどして、多面的・多角的な学びにつなげている。現代的な課題等は、全学年で「いのちの教育」を重点テーマとし、また、他社にはない独自テーマで複数教材をユニット化するなどの工夫がみられる。なお、1年間の学習を振り返るページは、生徒への問いかけの言葉が捉えにくく、ページ構成の工夫も弱い。また、判型はA4版であるが、サイズの割に余白が少ないなど見やすい印象を受けない。

廣済堂あかつきである。各教材には教材名しか示されていないが、学習の手がかりや複数の発問を提示するなどして、多様な学習活動となるよう補われている。特設ページ等で示される具体的な学習の手立ては少ないが、問題解決的な学習や体験的な学習に誘導することを意図した教材が最も豊富なことが特徴的である。現代的な課題等は、事例を多く紹介することで当事者意識をもって考えられるよう構成されている。別冊ノート

では、複数の発問や、内容項目への理解を助ける資料等が豊富であるが、本冊は教材ごと、別冊は内容項目ごとに構成されているため、関連性がわかりづらい。また、別冊は複数教材を1ページで扱っており、書く欄が足りなくなることが想定される。

日本教科書である。各教材に主題等が提示されておらず、教材の内容を捉えにくい。また、学年や教材で発問数にばらつきがあり、発問自体の力も弱いため、多面的・多角的な学びにつながりにくい。さらに、問題解決的な学習や体験的な学習、現代的な課題等であるいじめ問題を直接取り上げた教材が少ない。一方で、基本的人権や差別のない社会の実現に向け行動することについては、様々なアプローチから考えられるよう構成されている。なお、本文が見づらい箇所、必要な注釈がない箇所があったり、環境やカラーユニバーサルデザインについての配慮が不明など、他社に比べ、全体的に工夫が弱い印象である。

以上、8社の主な特徴等について説明した。選定委員会における調査研究や、最終の答申も踏まえ、「東京書籍」が、基本方針等に最も即した、本市立中学校にとって最もふさわしい教科書と考えている。

(事務局説明 関 学校指導課担当課長)

今後の予定であるが、本日採択いただいた教科書に基づき、指導計画・京都市スタンダードの作成作業に入る。特に中学校では、初めての道徳科の教科書ということ踏まえ、今回の教科化の目的である「考え、議論する道徳」が、各校で確実に実践されるため、昨年度の小学校と同様、これまで以上に丁寧なスタンダードとなるよう努めていく。あわせて、全体研修はもちろん、各校においても、教科化に向けた校内研修や勉強会が充実するよう、環境整備等にも取り組んでいく。

最後に、この間、議第11号及び第12号に関連して、「開かれた教科書採択」として丁寧な採択事務を進めてきた。御議決いただいた後は、本日も含め、これまでの教育委員会会議での審議内容や、選定委員会の概要、答申、関連資料等を、近日中に教育委員会ホームページで公開する予定である。

(委員からの主な意見)

【高乗委員】 綿密な調査研究に感謝申し上げます。学校現場の教員や保護者の意見や考えが重要であると考えており、議案の東京書籍については、今回の教科化の趣旨である「考え、議論する道徳」に向けて、適切に編集されていて、内容のバランスも良いと思う。また、中学校で初めて使用する道徳科の教科書として、構成も適切であるという印象である。授業は教員と生徒のやりとりが重要であるが、今後、実際の授業の中で、教科書の良さが有効に活用されるよう、授業改善を期待したい。

【鈴木委員】 中学校で道徳が教科化されるに伴い、初めて使用する教科書として、保護者や市民の関心も高い中、様々な角度から詳細な調査研究をいただ

いた。「授業」の視点を大切にした教科書を採択候補として挙げられていると思う。教科書は児童生徒に必要な資質・能力を養うための教科用の図書であるが、「学校の図書」として捉え、教科書を最大限生かし使い切るために、教員が教科を超えて教科書の内容を吟味することも大切であり、そうした研修等があってもよいと思う。また、児童生徒が、教科書が作成・配布される意図や仕組み、裏側の苦労等を知ることも大切と考える。

【笹岡委員】教科書の有効な活用についての周知や研修等の方針を伺いたい。

【事務局】今後、教科書を用いた教員研修を予定している。また、教員を中心とした作成委員会を設置し、次年度に向けて、本市独自の指導計画（京都市スタンダード）を作成する。京都市スタンダードには、教科書を使用した授業展開や指導上の工夫等を掲載するとともに、これまで本市が独自に開発してきた地域教材・独自教材やその指導案を盛り込むなど、学校現場が使いやすく、創意工夫できる内容としたい。

【在田教育長】昨年度の小学校道徳科では日本文教出版を採択したが、異なる発行者（東京書籍）を採択候補として挙げた理由は何か。

【事務局】小学校段階では、児童が授業の見通しを持ちながら学習を進められるよう、教科書は丁寧で細やかな工夫があるほうが有効であり、また「道徳ノート」が付されていることで、毎回の授業展開がイメージできることも効果的と考えた。中学校段階では、生徒が自身で考え、議論し、道徳的価値の理解を深めていくことが重要であることから、そうした手立てや多様な学習方法が提案されていることを重視した。「道徳ノート」についても、中学生には丁寧すぎる感があり、自身の考えなどを書き記すメモ欄程度で十分と判断した。それぞれ教員を中心とした選定委員会での調査研究に基づき、発達段階を考慮したものである。

（議決）

教育長が、議第11号 平成31年度に京都市立小学校及び義務教育学校（前期課程）において使用する教科書の採択について、また議第12号 平成31年度から平成32年度まで京都市立中学校及び義務教育学校（後期課程）において使用する「特別の教科道徳」教科書の採択について、各委員「異議なし」を確認、議決。

ウ 報告事項

報告 平成30年度全国学力・学習状況調査における京都市立小・中学校の調査結果について

(事務局説明 諏佐 学校指導課長)

4月17日に実施された「平成30年度 全国学力・学習状況調査」の結果について、お手元の資料「教育委員会資料」を中心に、御説明する。なお、結果公表が7月31日であり、すでに新聞報道等されている。

まず、1の「実施日、実施教科等」についてである。今回も昨年に引き続き悉皆調査として、小学6年生と中学3年生を対象に実施された。本市では、小中学校・総合支援学校も含め、小学校の調査を165校、中学校の調査を74校が実施した。国語、算数・数学は基礎的・基本的な知識や技能を中心とした「A問題」とその知識を活用するなど応用的な力をみる「B問題」が実施された。また、今回は3年ぶりに理科が実施され、「知識」「活用」に関する問題が一体的に出題された。その他、子どもたちの生活習慣や学習環境についての児童生徒及び学校を対象としたアンケート調査も行われている。

次に、2の「調査の結果について」を御覧いただきたい。まず、小学校の結果についてだが、全教科で全国平均を上回る良好な結果であった。全教科で全国平均を上回るのは、全国調査開始以降全ての年度で、9回連続である。また、京都市を除く京都府との比較でも全教科で京都府を上回っている。参考までに、各教科毎の都道府県・指定都市の中の順位をカッコ内に記載している。

続いて、中学校の結果だが、裏面を御覧いただきたい。国語、数学は全国平均を上回る良好な結果であったが、理科では全国平均を正答率で0.1ポイント下回った。なお、毎年実施されている国語、数学において全国平均を上回るのは、5回連続である。京都市を除く京都府との比較では、全教科において同等の結果である。

次に、3の「全教科に対する全国指数の経年比較」を御覧いただきたい。前年度と比較し、小学校においては2.0ポイント、中学校においては0.1ポイントそれぞれ上昇しており、近年は良好な結果が続いている。なお、全教科合計では、小学校は指定都市で1位、都道府県で5位相当の結果であり、中学校では指定都市で12位、都道府県で12位相当の結果となっている。

最後に、今後の予定についてである。9月上旬に管理職と教務主任、研究主任を対象に研修会を開催する。また、質問紙等による子どもの状況と学力の関係など詳細な分析については、9月下旬の教育委員会において、改めて説明させていただく予定である。

なお、結果の公表に関しては、学校別の成績を、教育委員会が公表しても良いこととされているが、今年度も昨年度までと同様に、教育委員会としては学校別の成績は公表せず、本市の全体的な傾向についてのみ公表している。また、各校の公表においても、学校の正答率を公表するのではなく、各校で特徴的な特定の設問の結果や児童生徒質問紙の結果などを例示し、明らかになった成果や課題、保護者・地域へのメッセージ等を、学校だよりやホームページ等で公表してまいる。

学力調査の結果が学力の全てであるかのような誤った評価の助長、学校の序列化に繋がる恐れがあることなどに配慮している。

続いて、児童生徒質問紙および学校質問紙調査から見えることについて簡単にご説明する。別にお配りしている冊子「平成30年度全国学力・学習状況調査 教科に係る調査結果概況及び児童生徒質問紙・学校質問紙回答集計結果」を御覧いただきたい。

児童生徒への質問の中から、話し合い活動について、小学校は18ページ右上の(57)、中学校は47ページ左上の(54)、「児童・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問を御覧いただきたい。

肯定的な回答が小・中ともに8割弱であり、全国の数値を上回っている。昨年度と比較すると、小学校では約10ポイント、中学校では約12ポイント増加しており、話し合い活動が充実してきたことが伺え、今回の結果につながっているものと思う。

一方、課題点として、「理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」という質問の中学校の結果を45ページ右側中段の(46)に掲載している。「週1回以上」と答えた生徒の割合が22%となっており、京都府の数値は上回るものの、全国と比べておよそ20ポイント下回っており、今回の中学校理科の結果につながっているものとする。

また、文部科学省による結果公表資料も参考にお配りしている。

(委員からの主な意見)

【星川委員】 京都市の学校の取組はマスコミに取り上げられているか。

【事務局】 各校の実践事例については「学びのコンパス」にて広報しており、それを元に複数校の取組を京都新聞に取り上げていただいた。地道な取組が取り上げられ、最近では金閣小学校のひらがな聞き取りテストが記事になった。今回小学校が政令指定都市1位になったことを受け、他都市からの問い合わせや指導課長会での質問も受ける。また、現在出版社からの取材が続いているので今後記事になると思う。

【星川委員】 ここ最近の大阪市の動向を受け、保護者も全国学力テストに注目していると思う。京都市の取組を売り込み、学校名を明らかにしてマスコミに取り上げていただけてはどうか。そうすれば、保護者にもアピールでき、学校にもより一層頑張ってもらえる。

【鈴木委員】 今回の結果は子どもたちの努力の賜物。先日、学校籍の方と話したが、「学校が面白い、楽しいと思うことが学びの原点である」とおっしゃっていた。今回の結果は、点数を上げるために筋トレのようなトレーニングをしたと思われかねないが、「学ぶことの喜び」という学校の質が向上した結果だと思う。今後、自己肯定感や「学ぶ喜び」に関する児童生徒アンケート結果を示しながら情報発信をしていただきたい。

【事務局】 学校は点数を上げるための授業ではなく子どもたちの資質・能力を伸ばすための授業をしている。めあて、ふり返りが徹底されており、学校訪問時も「大切にされ、大切にしている」という雰囲気子どもたちから

伝わってくる。「授業を大切にする」ということが今回の結果につながったと分析している。

【高乗委員】 金閣小学校の記事を読んだが、本来は課題のある子どもが対象のプログラムを全員に広げて実施していることに意義があると捉えた。個々の支援も大切だが、学校全体で指導体制を組んでいただきたい。

【在田教育長】 報告いただいたように、中学校の「理科室で観察や実験を週1回以上行う」という回答結果が低く、今回の理科の結果につながっていると考えられる。「小学校は理科が得意な先生がいない」と言われている中で、かなり良い結果だったのは、小学校での同じ質問結果が全国よりも良かったからかもしれない。理科について課題を分析し、各校や理科の研究会へ発信してまいりたい。なお、今後詳細な分析を行い、後日、報告させていただく。

(4) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

7月27日 国語科夏期研修講座・国語科教員指導力向上講座

7月27日 英語体験活動「Enjoy English」

7月30日 ジュニア京都観光大使感謝状贈呈式、任命式及び交流会

7月20日～9月17日 生き方探究館フェスタ

7月31日 龍谷大学附属平安高等学校硬式野球部の表敬訪問

7月31日 平成30年度全国学力・学習状況調査における調査結果公表

○事務局から当面の日程について説明

(5) 閉会

11時45分、教育長が閉会を宣告。

署名 教育長